

## 平成30年度第6回米沢ブランド戦略会議 会議録

1 日 時 平成30年12月14日（金）10:00～12:00

2 場 所 米沢市役所 B 棟第5会議室

出席委員

戦略会議：宮坂宏副会長、近藤哲夫委員、遠藤正紀委員、坂川好則委員、石塚久子委員、松本昭弘委員、金田江里子委員

博報堂：石川美子さん

3 事務局 武発地方創生参事、伊藤米沢ブランド推進室長、佐藤米沢ブランド推進室主任

### 4 会議録（要点のみ）

（1）開会

（2）議事

（副会長）

・議事第1番、「TEAM NEXT YONEZAWA」について。①登録までの今後の流れについて。  
※米沢ブランド推進室主任、資料1について説明。

（副会長）

・ここまでのご説明で、質問や意見はあるか？

（委員）

・登録基準を満たしていないものは、その時点で弾かれるのか？ 基準を満たしていない場合でも、反対意見が3分の1を超えなければ登録されるのか？ 取り扱いをどうするのか気になる。

（米沢ブランド推進室主任）

・登録フォームが必須事項になっているので、入力の際に項目を満たしていなければ、申請自体が上がってこないシステムになっている。事前の対応については、事務局側で確認させていただく。

（米沢ブランド推進室長）

・「公序良俗」などの定義の部分において、皆様が知っている内容と反する部分があれば、否定するよりも「これが駄目だ」と教えていただきたい。宗教団体やマルチ商法団体など知らないところもあるので、市民の代表である皆様に審査していただきたい。

（委員）

・例えば、いわゆるブラック企業などが公序良俗に反するものに当てはまる可能性もある？

(米沢ブランド推進室長)

- ・はい。

(委員)

- ・一度否決されたものは、それで確定されるのか？

(米沢ブランド推進室長)

- ・まず確定。内容が不適切であった場合、一度否決してからどこか問題だったかをフィードバックする形になれば、申請者の為にもなる。

(副会長)

- ・否決する場合、反対意見の数が委員総数の3分の1、3分の2のどちらが適当か？

(委員)

- ・否決されるということは余程の内容だと思うので、3分の1で十分だと思う。
- ・郵送よりもメールの方が効率的では？

(米沢ブランド推進室主任)

- ・メール等が不得意な方もいるので郵送にしている。ひとまず2019の対象となるものの戦略会議の審議は郵送で行い、以降はWebなどスムーズにできる方法を検討する。

(副会長)

- ・戦略会議が決定することは、市民に周知されている？

(米沢ブランド推進室主任)

- ・規定に記載させていただいている。

(副会長)

- ・今のメンバーの判断をする時の重要な個人情報になるので、取り扱いを十分注意していただきたい。
- ・反対意見の数が3分の1でいいかどうか、他に意見はあるか？

(委員)

- ・13人で3分の1以上ということであれば、4人ではなく5人ではないか？
- ・誰も知らないような企業、団体に関しては、反社会勢力がダミーを作って申請している可能性もある。登録は自己申告制なので、裏が取れない団体で、その内容を鵜呑みにして良いのか。市役所の中で事前審査や調査をするような仕組みが必要では？

(米沢ブランド推進室長)

- ・登録の取り消しも可能。戦略会議で登録となっても、最終的な決裁は米沢市が行うので、そこで対応できるのではないかと。結果的に虚偽申告や規定に反することが判明した場合には取り消す。申請しただけでこちらから調査するのは難しい。登録されてからわかるものも出てくる。
- ・3分の1以上は5人になる。5人から反対意見が出て、すぐに市が決定するわけではない。その辺りもよく考えなければならない。

(委員)

- ・エントリーしてから登録されるまでの申請者の公開はないので、決定した後に市民からクレームが来た場合、どのような対応をするのか？

(米沢ブランド推進室主任)

- ・エントリーされたものは、事務局側で一度チェックしてから委員の皆様へ資料をお送りしている。登録規定に沿っているかどうか判断基準になるので、規定に沿っていればクレームが来ても否決されるべきではない。
- ・公開されるまでの間に相談しながら内容を修正する団体もあるので、登録までの間も公開し続けることは現時点では難しい。

(委員)

- ・クレームがついた部分だけを調査すべきでは？ 厳重な調査が必要だと思う。

(米沢ブランド推進室主任)

- ・1つでも反対意見が出た場合には、調査しなければならないと思っている。意見が出た時点で、市役所内部で検討させていただき、調査する。市役所に権限がそこまであるわけではないので、どこまで調査できるか。皆様に聴き取りさせていただく場合もあるかもしれない。

(委員)

- ・後から色々な話が出てくると思う。その後は内容の大きさなどで判断することになる。

(副会長)

- ・問題があれば順次変更も可能であるということ。
- ・否決となる反対意見の数は3分の1でよろしいか？

(委員)

はい。

(副会長)

- ・申請の可否の流れは資料に記載されている通りに進めていく。

- ・議事第1番②、第1期申請分（H30.11.30〆切）の登録審査について。

※米沢ブランド推進室主任、資料2について説明。

（副会長）

- ・資料2について、意見や質問はあるか？

（委員）

・金融機関がTEAM NEXT YONEZAWAになって、どうしたらAWARDに該当するものになるのかイメージできない。

（米沢ブランド推進室長）

・TEAM NEXT YONEZAWAはAWARDを目指すことが前提ではなく、「挑戦と創造」のコンセプトに基づいて皆同じ方向性で頑張っていくことが基本。その中で突出した「挑戦と創造」をした団体が出すサービスや商品に、AWARDを付けて顕彰することが今回の流れ。したがって、金融機関が突出したサービスを出せば、AWARDになる可能性がある。皆がAWARDを目指してもいいが、必ずなれるわけではない。TEAM NEXT YONEZAWAの中で頑張ろうという流れになるかもしれない。

（地方創生参事）

・これからのTEAM NEXT YONEZAWA同士の交流や、お互いに向上の支援を考えていく中で、金融機関の力が活躍していくと思う。

（副会長）

- ・申請した17団体について、承認ということによろしいか？

（委員）

- ・はい。

（副会長）

- ・議事第1番③、「TEAM NEXT YONEZAWA」登録証授与式について。

※米沢ブランド推進室主任、「TEAM NEXT YONEZAWA」登録証授与式について説明。

（副会長）

- ・登録証授与式について、意見や質問はない。
- ・議事第2番、米沢ブランド宣言イベント以降の動きについて。

※米沢ブランド推進室主任、資料3について説明。

（副会長）

- ・皆様から意見や質問はあるか？

(委員)

- ・登録目標に期限はあるか？

(米沢ブランド推進室主任)

- ・平成31年度までに50件のブランド数を指すということで、国に提出している。

(委員)

- ・TEAM NEXT YONEZAWA の登録目標数であれば、少ないのではないか？

(地方創生参事)

・交付金の申請をした当時には、TEAM NEXT YONEZAWA の仕組みもなかった。認証やブランド化というイメージはあったので、50件ということにした。独自の KPI 調査も続けているので、それに基づいて目標を改めて作るべきだと思う。現在 TEAM NEXT YONEZAWA の目標は50件だが、3月までに100件ぐらいいはないと、AWARD の土台としては弱い。

(米沢ブランド推進室主任)

・地方創生交付金は3カ年の計画だが、単年度ごとに申請し直さなくてはならない。その時に、「ブランドの認証件数」という表現を、「TEAM NEXT YONEZAWA の登録件数」に修正しても問題ない。今後ブラッシュアップしていく。

(委員)

・YouTube は、クレームも含め若い世代にかなり効果がある。戦略会議で話を決めるばかりではなく、一般市民が広めていく PR の手法であることを勉強させてもらった。

(副会長)

- ・資料にはネガティブな意見ばかり記載されているが、ポジティブな意見はないのか？

(米沢ブランド推進室主任)

- ・資料にはネガティブな意見のみを掲載。ポジティブな意見は説明会の中でいただいている。

(委員)

- ・米沢市「米沢品質向上運動」登録規定に誤植あり。

(地方創生参事)

- ・誤植や誤字は全部修正する。

(副会長)

- ・ブランドムービーチャンネルの登録数や、ブランドサイトのアクセス数を増やす取り組みは行っているか？

(米沢ブランド推進室主任)

- ・11月30日時点で1600件という少ないアクセス数だったので、早急に Web 制作会社と相談して対策を取らせていただいた。昔はメタタグの中にキーワードを盛り込んで検索しやすくしていたが、今はその手法だとセキュリティに引っ掛かり、Google や Yahoo から弾かれてしまう。また、試験運用期間は外部から閲覧できないようクローズにしていたため、その影響で検索に上がりづらい。その対策として、ページのトップに「米沢ブランド」「米沢品質」「挑戦と創造」といったキーワードをテキスト体で埋め込んでいる。市役所 HP の中にあるので、信頼性が高いコンテンツともなっている。次回にはもう少し伸びた数字になっていると思う。

(委員)

- ・SNS で誰もシェアしていないのは何故？

(米沢ブランド推進室主任)

- ・シェアは個人が個人の意思で行うものなので、こちらから拡散してほしいと言えない。また、SNS は拡散希望と書くと逆に拡散されない。戦略会議の皆様、プロジェクトメンバーの皆様に、積極的な協力をお願いしたい。

(副会長)

- ・議事第3番、米沢ブランド番組の企画案について。
- ※米沢ブランド推進室主任、資料4について説明。

(副会長)

- ・資料4について、意見や質問はあるか？
- ・4チームを一気に紹介するのではなく、順次紹介していく流れ？

(米沢ブランド推進室主任)

- ・はい。
- ・株式会社新田は、あくまで米沢ブランドの登録の手順を実際に行ってみようというデモンストレーション。

(委員)

- ・大枠の形としては、この内容とコンセプトでいいと感じた。
- ・事業説明のイメージをもう少し具体的に教えてほしい。映像を用いてナレーションを流す形になるのか、地方創生参事が説明するのかなど、どういう形になるのか？

(地方創生参事)

・固くロジカルになってしまうのは、番組の性質からして避けたい。誰が観ても興味が湧くようなものにする。できればプロジェクトメンバーに考え方の根本の部分を説明していただき、そこから巻き込んでいけるといい。

(委員)

・書面での申し込みもできるとのことだったが、デジタルに弱い人はダウンロードもできないので、紙の申請書を入れていただきたい。

(米沢ブランド推進室主任)

・紙の申請書は、相談があればこちらで印刷して渡す。可能な限り Web で集約し、登録して、自分でページを管理していただく。100、200件と登録数が増えたときに、随時市役所で修正する形式では厳しい。

(委員)

・若い人にやってもらおう、という意見はあるが、そこに辿り着くまでにどうしたら良いかわからない人もいる。

(米沢ブランド推進室主任)

・その方を教えていただければ、後ほどご相談させていただく。

(米沢ブランド推進室長)

・学生などに、TEAM NEXT YONEZAWA を支援するグループになってもらう、といった手法も考えられる。TEAM NEXT YONEZAWA を助けてもらえるような仕組みを作っていけるといい。

(副会長)

・「挑戦と創造」だと少し固いので、ライブ感覚の楽しい番組であってほしい。情報を説明するだけでなく、それに対する市民の反応なども併せて準備していただきたい。

・ブランド番組について、資料のとおりに進めるということではよろしいか？

(委員)

はい。

(副会長)

・議事第4番、第2期米沢ブランド戦略会議の組織体系及び公募委員の募集について。

※米沢ブランド推進室主任、資料5について説明。

(副会長)

- ・資料5について、意見や質問はあるか？

(委員)

- ・問題なし。いいと思う。

(委員)

- ・委員を増やすのはいいことだと思う。

(副会長)

- ・プロジェクトメンバーの参画と、公募委員を増やすことについて、案の通りに進めてもよろしいか？

(委員)

- ・はい。

(米沢ブランド推進室長)

- ・現在の戦略会議の委員の任期が来年3月までなので、第2期に向け一度リセットされるが、再任に妨げはない。

(副会長)

- ・メンバーが固定化されるより、新しいメンバーが入った方が新しい意見を頂戴できると思う。

(地方創生参事)

- ・今年11月にスタートし、まだアクセス数や登録者数は少ないが、米沢にある様々な魅力が集まり、同じ方向を向くことで必ず大きな力になる。この装置を皆様や関係する方に広めていただき、そこから素晴らしいAWARDに繋がり、外に向かって発信されていく動きになっていただきたい。来年の1月に内閣府での報告会があり、この事例を報告するので、注目されるようなブランディングにしたい。

(副会長)

- ・プロジェクトチームでSNSの活用はしているのか？

(米沢ブランド推進室主任)

- ・プロジェクトチームではなく公式のアカウントで発信させていただいている。

(地方創生参事)

- ・公式アカウントに何を載せてどう発信するのか、継続的な編集方針を考えなければいけない。



(副会長)

- ・このままでも十分 AWARD になれそうな有形、無形のものを作っているところには先にアプローチをした方がいいのではないかと。面白い団体がたくさんあるので、そういったところに我々から声をかけるといい。
- ・ポジティブな意見として、ブランド推進室のキーマンである地方創生参事に残っていてほしい。

(地方創生参事)

- ・AWARD のアプローチは、委員の皆様にご協力いただくのはいいが、市がやるのは難しい。自分たちとしては、素晴らしいものを作っているところには TEAM NEXT YONEZAWA に入ってもらいたいです。個人的では、お店に行ったときに話をするなどしている。
- ・外部審査員が固まってきたので、AWARD 自体の仕組みも含めて次の会議で皆様にお知らせできると思う。その中で、「これがあればこういうアプローチができる」などの意見も出てくると思う。
- ・議会からは色々な提言があるが、組織の人材も含めて判断するのは戦略会議である。ただ、議員とプロジェクトメンバーとの懇談会でも、ゴールのイメージが共有されていたように感じた。

(委員)

- ・TEAM NEXT YONEZAWA に入って AWARD に表彰されなかったとしても、外部のアドバイザーから「次はこうしたらいい」とアドバイスしてもらえるとやる気が出るきっかけづくりになるのではないかと。そのような仕組みがあれば、「入っておけば良かった」と思うところも出てくると思う。外部の著名な方にアドバイスしてもらえる機会もなかなかないので、そのような形を考えていただきたい。

(米沢ブランド推進室長)

- ・来年度 TEAM NEXT YONEZAWA の方にどのような支援をしていけるかが重要なポイント。実際に TEAM NEXT YONEZAWA の方に話を聞こうという姿勢が必要なのではないかと。「こんな支援があるといいだろう」と勝手に届けても、誰も受け取ってくれなければ今まで通りになってしまう。せっかく市民参加で始めたブランドなので、アウトプットも市民参加にしなければならない。したがって、戦略会議の委員の皆様やプロジェクトチームの意見はもちろん、TEAM NEXT YONEZAWA のブランドに対する想いを聞いて、事業を作っていきたい。外部のアドバイザーにどのような人を当てるといいのかはまた別の話なので、そこも話を聞いていきたい。

(地方創生参事)

- ・議員からも、TEAM NEXT YONEZAWA の中から「こういうことが〜」という意見が生まれるといい、といった話をいただいている。第1期の17人は最初に集まっていた方なので、大事にしていきたい。市長から賞状とバッジをもらうだけでなく、彼らの意見をベースにしながらより良い運動体にしていかなければならない。

(副会長)

- ・何か目新しいことがあれば、それを発信していくシステムが大事。

(地方創生参事)

- ・なるべく広報よねざわで、現在の登録数などを積極的に発信していく。

(委員)

- ・市全体でこういうプロジェクトに取り組んで、こういう企業、団体が支えているということを知らしめていかないと、なかなか盛り上がらない。

(米沢ブランド推進室主任)

- ・今回の会議録を年内に送らせていただくが、TEAM NEXT YONEZAWA のチラシも同封する。QRコードを読み込めばすぐにブランドサイトにアクセスできるようになっているので、拡大にご協力いただきたい。

(副会長)

- ・本日参加したメンバーだけでもいいので、メールがいいのか紙ベースがいいのか希望を取った方がいいのでは？

(米沢ブランド推進室主任)

- ・本日いるメンバーは、坂川委員以外はメール。欠席したメンバーに関しては、メールと郵送どちらがいいか伺わせていただく。議会からはご希望に沿った方法で送らせていただく。

(副会長)

- ・追加の説明などはないか？

(米沢ブランド推進室主任)

- ・はい。

(副会長)

- ・以上で第6回米沢ブランド戦略会議を終了する。